

履修モデル

学位取得に向けて研究するために、研究課題に即した適切な授業科目を選択しなければならない。そのため、各専修ごとの履修モデルを参考に研究課題に即したオリジナルな履修計画を立てることとなる。

言語文化学専攻（博士後期課程）

日本文学専修	研究題目	森鷗外 歴史小説研究
	養成する具体的な人材像	時代状況・文化との関わりを踏まえた上で、日本近代文学研究の諸方法論を学び、研究者として自立できる人材を養成する。
	研究内容	「明治」から「大正」へと元号が代わった1912年、その9月13日に行われた明治天皇大葬の当日、乃木希典が殉死するという事件が発生した。1887（明治20）年4月18日、留学の地・ドイツベルリンにおいて初めて乃木と出会い、以後長い交際を続けていた鷗外は、この事件に衝撃を受け、江戸期、熊本・細川藩に実際にあった主君に殉死した侍を主人公に、「興津弥五右衛門の遺書」を一気呵成に書き上げ、10月の『中央公論』誌上に発表する。これが鷗外歴史小説の第一作となり、以後1916年1月発表の「寒山拾得」まで、大正期の鷗外は都合16編の歴史小説を発表する。しかしそれら歴史小説は、「其の過去は単純なる過去にあらず、却てよく現在を説きまた未来を暗示するものたるを知れり」（『隠居のこごと』『女性』1923年9月）と、永井荷風が鋭く指摘していたように、決して「いま」「ここ」の問題と無縁のものではなかった。本研究では、作品生成の土壌（依拠資料との関係、時代状況との関係、同時代文学との関係、他作家との交響関係等）を明らかにし、鷗外歴史小説の有り様を明らかにすることを目指す。
	指導教員	須田喜代次教授 研究計画、研究全体の指導、森鷗外研究の指導 杉浦静教授 近代文学研究の指導、草稿研究の指導
履修科目		近代現代文学特論Ⅰ（2単位）、近代現代文学特論Ⅱ（2単位）、近代現代文学特論Ⅲ（2単位）、近代現代文学特論Ⅳ（2単位）、研究指導Ⅰ（2単位）、研究指導Ⅱ（2単位）

英語文学・英語教育専修	研究題目	日本人英語学習者に対するフォーカス・オン・フォームの研究
	養成する具体的な人材像	洗練された言語センスと研究方法を身につけ、言語教育の課題を発見して解決をめざせる人
	研究内容	各種の調査は、多くの日本人英語学習者は十分な文法力を習得していないことを報告している。基礎的な文法知識の未定着に加え、一定の知識を持っていてもそれを言語使用の場面で使用できない実態が問題となっている。対処策として期待されるのはフォーカス・オン・フォーム（FonF）である。これは、意味、形式、機能の3つの側面に学習者の注意を払わせながら実際のコミュニケーションで使用できる力を高める画期的な指導法だと考えられている。しかし、従来の形式重視の指導法と比較した指導効果の実証研究は不十分である。実証研究を進めるためには、日本人学習者の文法知識の質の調査、3つの側面に注意を払わせる指導方法、指導効果を測定するための文脈テストの開発、などが必要である。これらを整備したうえで、日本人英語学習者に対する効果の実証研究を行う。
	指導教員	伊東武彦教授 指導計画、FonFに関する先行研究の理解、指導、統括 村上 丘教授 文法理論に関する指導、語法文法研究に関する指導
履修科目		英語学特論Ⅰ（2単位）、英語学特論Ⅱ（2単位）、英語学研究Ⅰ（4単位）、英語学研究Ⅱ（4単位）、研究指導Ⅰ（2単位）、研究指導Ⅱ（2単位）

国際文化専修	研究題目	メディア・コミュニケーションと国際社会に関する研究
	養成する具体的な人材像	現代の国際間における諸問題の解決を図り、学問文化の向上発展に寄与する実践的研究者および高度専門職業人
	研究内容	現代社会におけるメディア・コミュニケーションの空間は、テレビや新聞など従来型のマス・コミュニケーションによるものに加えて、デジタル・メディアを媒介とするパーソナルで双方向的なコミュニケーションによって構成されている。これらのコミュニケーション空間においてメッセージの生産と消費はトランスナショナルに展開され、その行為主体として私たちは、インターセクショナルでハイブリッドな主体を想定しながら、今日的なメディア・コミュニケーションの実際の運用について検証し、分析していく必要がある。本研究では、①こうしたメディア・コミュニケーションの空間におけるグローバルなジャーナリズムについて政治経済的な観点から調査分析する、②デジタル・メディア時代のグローバルな文化表現の在り方について社会文化的な観点から調査分析する、のいずれかの視座から研究を進め、マス・コミュニケーションと国際社会の関係について検討していくことを目指す。
	指導教員	桶田 敦教授 主にマス・コミュニケーション論、ジャーナリズム論に関わる研究指導 田中東子教授 主にメディア文化論、カルチュラル・スタディーズに関わる研究指導
	履修科目	メディア・コミュニケーション特論Ⅰ、メディア・コミュニケーション特論Ⅱ、メディア・コミュニケーション研究Ⅰ、メディア・コミュニケーション研究Ⅱ、異文化コミュニケーション特論Ⅰ、異文化コミュニケーション研究Ⅱ、研究指導Ⅰ（2単位）、研究指導Ⅱ（2単位） 最低履修単位数は、研究指導を含め6科目12単位